

## 国際教養学科における教員養成に対する理念等

### 教員養成に対する理念・構想・養成する教員像

#### 【国際教養学科】

国際教養学科は、国際化、グローバル化が加速する現代社会の要請に応えうる人材の養成をめざしている。そのため、教育課程は言語の習得に偏らず、わが国及び諸外国・諸地域の歴史や思想文化への多面的な理解を促すとともに、国際社会におけるアクチュアルな課題に対する理解や教養を深めることができるよう工夫されている。具体的には、選択言語（中国語・ロシア語・ドイツ語・フランス語・スペイン語のいずれか）と英語の2言語の習得を基礎にしつつ、言語文化・歴史文化・思想文化・国際社会に関する専門科目を体系的に学ばせる構造となっている。

こうした学科の理念と教育課程の特色は、今後さらに教育の国際化を進展させていこうとする学校教育の課題にも応えうるものであると考える。すなわち、わが国及び諸外国・諸地域の歴史や思想文化、国際社会の課題に関する基礎的な知識等に関する教育、さらには実践的な外国語学習の経験を踏まえた言語活動の充実をめざす教育の担い手の育成である。「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」と「言語活動の充実」は中学校社会科の学習指導要領改訂の基本方針（平成20年中学校学習指導要領解説・社会編）とも合致するものであり、高等学校学習指導要領の地理歴史科の目標として掲げられる「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める教育」、公民の目標として掲げられる「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育てる」教育の充実にも、本学科の学士課程修了者は十分に寄与することができる。国際社会における相互理解の促進と、多様なレベルでの国際交流を担う次世代の育成という我が国の中等教育の課題に応えるべく、本学科では中学校社会科、高等学校地理歴史科及び公民科の教職課程を設置するものである。

本学科の教員養成課程は前記の理念に基づき、中等教育段階の生徒に対し、社会に対する幅広い視野と知識、国際社会に生きる公民としての自覚を教え導くことのできる教員の養成を目標として構想されている。そのため、教職課程を履修する本学科の学生は、複数言語の習得を通じて自らが広範な視野を体得し、さらに人文・社会科学系統の科目を広く履修することによって自己および異文化への深い理解を身につけることが求められる。この教職課程では、中学社会・高校地歴・公民の3科目とも、「教科に関する科目」の多くを学科の固有科目で構成するなど、言語文化・歴史文化・思想文化・国際社会の4つの系統を持つ本学科の多彩な科目群を活用したカリキュラムが構築されている。また、本学科の教職課程における「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の担当教員は、いずれも本学科に属しており、学科教員が広く協力する体制で、課程の充実に向けた取り組みを続けている。カリキュラムの運営については、学科の専任教員によって構成される学部固有科目運営委員会が主たる担い手となり、全学委員会である教職課程委員会、事務部門である教務課と連携して、学科の教職課程が円滑に運営されるよう努めている。

### 教職課程の設置趣旨（学科等ごと）

#### 【国際教養学科】

国際教養学科では、教育目標として「外国語運用能力を基礎に、言語・歴史・文化・思想・社会に関する学問分野の知見を深め、時々刻々と変化する世界情勢を見極めつつ、能動的に国際社会に貢献しうる国際教養人を養成すること」を掲げている。本学科では、ここに言う国際社会への貢献の一方途として教職を想定し、我が国の中等教育の充実と発展に寄与しうる人材の養成を使命のひとつととらえている。このような立場に基づき、本学科では、その学士課程のカリキュラムと深く関連する中学校社会科・高等学校地理歴史科・公民科の教職課程を設置するものである。

#### 《中学校教諭一種免許状：社会の設置趣旨》

本学科における教職課程は、中学校社会科の教科に関する教育の根拠とすべき諸学問（免許法施行規則に定める科目区分）のうち、「日本史及び外国史」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」の全科目、「法学、政治学」の一部科目を、学士課程学科専門科目のうちの該当科目をもっておこない、中学校社会科教育が担う多岐に及ぶ諸学問分野をほぼ網羅しうる専門的学識を備えた中学校教員を養成する。各科目区分には、それぞれの学問領域における一般的包括的な内容を教授する科目を配置して、学習内容に偏りが生じないよう配慮している。また、本学科の学士課程では、1、2年次を中心に語学の必修科目が多く配置され、言語を通じたコミュニケーション能力の養成、多言語・多文化社会に対して開かれた広い視野の涵養がはかられる。さらに、同学士課程では、2年次から4年次までの6セメスター分の演習も必修とされており、その締めくくりとして卒業研究の提出も必須となっている。学生はこの演習と卒業研究を通じて、主体的に研究に取り組み、大学における自らの学びの総合・応用の実践経験を積むことになる。

中学校学習指導要領では、社会科の目標を「広い視野に立って、社会に対する関心を高め」、「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことと定めている。上記の本学科教職課程及び学士課程は、この教育目標を担うに足る知識と能力を備えた教員を養成するに適したものと考える。とりわけ本学科の教職課程を経た教員免許状取得者は、平成20年の中学校学習指導要領改訂に際して基本方針とされた「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」に対応する能力を備えていることはもちろんのこと、「言語活動」「伝統や文化、宗教に関する学習」の充実をはかるうえで、大いに貢献しうる人材となることが期待される。

#### 《高等学校教諭一種免許状：地理歴史の設置趣旨》

本学科における教職課程は、高等学校地理歴史科の教科に関する教育の根拠とすべき諸学問（免許法施行規則に定める科目区分）のうち、「日本史」、「外国史」の全科目、「地誌」過半数の科目を、学士課程学科専門科目のうちの該当科目をもっておこない、高等学校地理歴史科教育が担う多岐に及ぶ諸学問分野をほぼ網羅しうる専門的学識を備えた高等学校教員を養成する。各科目区分には、それぞれの学問領域における一般的包括的な内容を教授する科目を配置して、学習内容に偏りが生じないよう配慮している。その上で世界史、地誌については、本学部の教育の特色である多文化教育に関わる特論的科目も加え、教職履修者がより専門的な研究に触れる機会も設けている。また、本学科の学士課程では、個々の学生が前項に述べた言語教育を通じたコミュニケーション能力の養成、多言語・多文化社会に対して開かれた広い視野の涵養、演習と卒業研究を通じた主体的な研究への取り組み、自らの学びの総合・応用などの実践経験を積む仕組みを取っている。

高等学校学習指導要領では、地理歴史科の目標を「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め」ることと定める。上記の本学科教職課程及び学士課程は、この教育目標を担うに足る知識と能力を備えた教員を養成するに適したものとする。とりわけ本学科の教職課程を経た教員免許状取得者は、平成 21 年の高等学校学習指導要領改訂に際して基本方針とされた「習得した知識、概念や技能を活用して課題を探究する学習の充実」や、「過去や異文化に対する理解、国際社会に主体的に生きる資質を培う」教育、「言語に関する能力を育成する」教育（平成 21 年高等学校学習指導要領解説・地理歴史編）に対応する能力を十分に備えた人材となることが期待される。

#### 《高等学校教諭一種免許状：公民の設置趣旨》

本学科における教職課程は、高等学校公民科の教科に関する教育の根拠とすべき諸学問（免許法施行規則に定める科目区分）のうち、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の全科目、「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」の一部科目を、学士課程学科専門科目のうちの該当科目をもっておこない、高等学校公民科教育が担う多岐に及ぶ諸学問分野をほぼ網羅しうる専門的学識を備えた高等学校教員を養成する。各科目区分には、それぞれの学問領域における一般的包括的な内容を教授する科目を配置して、学習内容に偏りが生じないように配慮している。その上で社会学、経済学、哲学については、現代的諸課題に対応した特論的科目も含み、教職履修者がより先端的な研究に触れる機会も設けている。また、本学科の学士課程では、個々の学生が先に述べた言語教育を通じたコミュニケーション能力の養成、多言語・多文化社会に対して開かれた広い視野の涵養、演習と卒業研究を通じた主体的な研究への取り組み、自らの学びの総合・応用などの実践経験を積む仕組みを取っている。

高等学校学習指導要領では、公民科の目標を「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせる」ことと定める。上記の本学科教職課程及び学士課程は、この教育目標を担うに足る知識と能力を備えた教員を養成するに適したものとする。とりわけ本学科の教職課程を経た教員免許状取得者は、平成 21 年の高等学校学習指導要領改訂に際して基本方針とされた「社会的事象についての見方や考え方を成長させる」教育や、「グローバル化や規制緩和の進展」などの現代的な事象に関する学習の充実などの諸課題（平成 21 年高等学校学習指導要領解説・公民編）に対応する能力を十分に備えた人材となることが期待される。